第５８回全日本聾教育研究大会
（東京大会）
開催要項

全日本聾教育研究会
J.A.E.R.D
Japanese Association of
Educational Research for the Deaf

全　日　本　聾　教　育　研　究　会
関　東　地　区　聾　教　育　研　究　会
全日本聾教育研究大会（東京大会）実行委員会

令和６年（2024 年）10 月 17 日（木）～18 日（金）

第５８回全日本聾教育研究大会（東京大会）開催要項

１　大会名称　　第５８回全日本聾教育研究大会（東京大会）

２　大会主題　　「新しい時代の聴覚障害教育を考える」
～子供たちが豊かな人生を自ら切り拓くために～

【主題設定の理由】

「新しい時代の初等中等教育について（諮問）」（平成 31 年 7 月）では、以下のように今後の学校教育の変化について示されている。

今世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤となっている知識基盤社会と言われており、人工知能（AI）、ビッグデータ、Interenet of things(IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方のそのものが現在とは「非連続的」と言えるほど劇的に変わるとされる Society5.0 時代の到来が予想されています。このような急激な社会的変化が進む中で子供たちが変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成することが求められており、それに対応し、学校教育も変化していかなければなりません。

また、学習指導要領の前文には、「これからの学校には、（略）、一人一人の児童又は生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」とある。

一方、聴覚障害教育は、学力を身に付けるために必要な言語力やコミュニケーション能力を高めることを最優先に教育を行ってきた。先人の培ってきた教育を継承し、その専門性をもって障害の多様化や社会の変化に対応しながら、教育実践を積み重ね、聴覚に障害のある子供たちの力を伸ばしてきた。現行の学習指導要領で示される以前から聴覚障害教育では、個別最適な学びを充実させ、子供たちの学力や、コミュニケーション能力を高める教育を行い、生きる力を高め、自立と社会参加できる子供たちを育ててきたと自負している。

予測不能な未来社会の中で、子供たち自身が自立的に生きていくためには、社会の変化に対応できる「生きる力」を高めていくことが必要である。現行の学習指導要領に示されたように、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等の涵養」、生きて働く「知識・技能の習得」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の育成」の３観点を基本に幼児・児童・生徒を育成することが求められている。インクルーシブ教育の進展や情報機器の技術革新により、聴覚障害者を取り巻く社会は大きく変化していくであろう。情報機器の技術革新により、今後はより一層シームレスに他者とコミュニケーションが取れることが考えられる。一人一人の子供たちが、自分の価値を認識するとともに、相手の価値を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、よりよい人生とよりよい社会を築いていくためには、主体的・対話的で深い学びの実現が重要である。

本研究では、次代を切り拓く子供たちに求められる資質・能力を明らかにし、それらの力を着実に育んでいくため、新しい時代の聴覚障害教育の専門性のあり方を示し、今まで培ってきた聴覚障害教育の専門性の継承とさらなる発展のため、自立的に生き、社会の形成に参画できる資質・能力を確実に育成する教育を目指し、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる子どもたちを育成したい。

子どもたちの確かな育ちは、今まで培ってきた聴覚障害教育の実践をもとにした、質の高い授業の先にあると考え、本主題を設定した。

３　会期（予定）

令和６年１０月１７日（木）・１８日（金）

４　会場

国立オリンピック記念青少年総合センター

東京都立大塚ろう学校、東京都立中央ろう学校、東京都立葛飾ろう学校、東京都立立川学園

５　主催

全日本聾教育研究会　　関東地区聾教育研究会

６　主管校

東京都立大塚ろう学校　　東京都立中央ろう学校

７　協力校

東京都立葛飾ろう学校　　東京都立立川学園

茨城県立水戸聾学校、茨城県立霞ヶ浦聾学校、栃木県立聾学校、群馬県立聾学校、
千葉県立千葉聾学校、筑波大学附属聴覚特別支援学校、埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園、
埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園、明晴学園、日本聾話学校、川崎市立聾学校、
横浜市立ろう特別支援学校、横須賀市立ろう学校、神奈川県立平塚ろう学校、山梨県立ろう学校
長野県長野ろう学校、長野県松本ろう学校、静岡県立沼津聴覚特別支援学校、
静岡県立静岡聴覚特別支援学校、静岡県立浜松聴覚特別支援学校

８　後援（予定）

文部科学省　東京都教育委員会　全国聾学校長会　全国聾学校教頭会　全国特別支援学校長会
関東地区聾学校長会　関東地区聾学校教頭会　東京都特別支援学校長会
全国ろう学校ＰＴＡ連合会　全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会

９　協賛（予定）

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会　小川再治研究協賛会
公益財団法人日本教育公務員弘済会東京支部

10　記念講演

講師　　東京学芸大学　教授　澤　隆史　氏
演題　　（仮）「新しい時代における聴覚障害児教育について」

11　大会内容

大会当日日程

月　日	時間	日　　程		
大会前日 １０月１６日（水）	13:00-14:00 15:00-16:30 16:00-16:30	大会運営委員会（前日打合せ）（大塚ろう学校） 全日本聾教育研究会全理事協議会（オリンピックセンター） 授業研究会打合せ（助言者・司会者・記録者）（各校）		
第１日目 １０月１７日（木）		大塚ろう学校	中央ろう学校	葛飾ろう学校 立川学園
	8:30～	受付	受付	受付
	9:20～ (9:05～立川のみ)	公開授業 幼稚部、小学部	公開授業 中学部、高等部	公開授業 高等部専攻科他
	10:20～ (10:00～立川のみ)	指定授業 幼稚部、小学部低学年、小学部高学年、小学部重複	指定授業 中学部、高等部	公開授業 高等部専攻科他
	11:15～13:15	移動・休憩・昼食（午後の受付：オリンピックセンター） ※移動は公共交通機関利用　※昼食は各自		
	13:20～14:40	授業研究分科会（会場：オリンピックセンター） （幼、小低、小高、重複、中、高）		
	15:00～15:30	開会式		
	15:40～17:00	記念講演		
第２日目 １０月１８日（金）	9:00～	受付（場所：オリンピックセンター）		
	9:30～12:00	研究協議分科会		
	12:00～13:00	昼食・休憩		
	13:00～16:00	研究協議分科会		
	16:00～	閉会行事		

（３）その他

※全国聾学校長会（会場：国立オリンピック記念青少年総合センター）

10/18(金)　9:00～14:30

※家庭教育を考える部会 2024 年（会場：国立オリンピック記念青少年総合センター）

10/18（金）　13:30～　開会式・協議会　　10/19（土）　9:30～　講演・閉会式

12　設定分科会

（１）授業研究分科会

【指定授業】会場：大塚ろう学校、中央ろう学校

【公開授業】会場：葛飾ろう学校、立川学園

学　校　名	公　開　授　業	指　定　授　業
東京都立大塚ろう学校	幼稚部、小学部	幼稚部、小学部低学年、小学部高学年、小学部重複
東京都立中央ろう学校	中学部、高等部	中学部、高等部
東京都立葛飾ろう学校	中学部重複、高等部、専攻科	
東京都立立川学園（聴覚障害教育部門）	高等部、専攻科	

【授業研究分科会テーマ、助言者】会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

学校名		分科会	分科会テーマ	助言者
1	東京都立大塚ろう学校	幼稚部	伝え合う力を高める保育づくり	財団法人聴覚障害者教育福祉協会 専務理事　松本　末男
2		小学部低学年	集団の中での対話を通して考えを深め、課題を解決していく授業づくり	東京栄養食糧専門学校 教授　信方　壽幸
3		小学部高学年	自ら思考・表現し、協働しながら考えを深め、課題を解決していく授業づくり	東北福祉大学 教授　大西　孝志
4		小学部重複	興味・関心を引き出し、探究心を育てる授業づくり	一般財団法人日本心理研修センター 事務局長　永石　晃
5	東京都立中央ろう学校	中学部	生徒自ら学びに向かい、考えを深める力を育てるための授業づくり	筑波技術大学 准教授　脇中　起余子
6		高等部	自ら問を立て、思考を深め、説明する力を育てるための授業づくり	東京学芸大学 教授　澤　隆史

（２）研究協議分科会　会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

分科会／会場		協議主題（分科会テーマ） 主題設定の理由	助言者 運営担当校
1	早期教育１（乳幼児）	早期からの切れ目ない支援における乳幼児教育相談の在り方を考える	東京学芸大学 教授　濱田　豊彦
		全ての聴覚に障害のある子供とその保護者が早期からの切れ目ない支援を受けるために、教育・医療・保健・福祉の連携は不可欠である。また、保護者を取り巻く時代や環境の変化に対応した保護者支援が求められている。関連機関との連携強化やより良い保護者支援について研究し、早期からの切れ目ない支援の充実に繋げたい。	山梨県立山梨ろう学校 日本聾話学校
2	早期教育２（幼稚部）	遊びや生活を作り上げていく中で、幼児が気付きや考えを深められる保育のあり方～多様化に寄り添い、幼児の姿をどのように捉え、幼児とどのように関わるか～	財団法人聴覚障害者教育福祉協会 専務理事　松本　末男
		近年ろう学校の幼児・家庭・保育者の状況は大きく変化している。多様化する現状を受け止め、豊かに伝え合い関わり合うためのコミュニケーションや日本語の育ちをどのように支援していくか。個性を尊重し、自ら学びながら主体的に遊びや生活を作り上げていく環境構成や保育者の関わりはどのようにあるべきか深める。	千葉県立千葉聾学校
3	教科教育１（小学部）	自ら思考・表現し、協働しながら考えを深め、課題を解決していこうとする力の育成を目指して	東北福祉大学 教授　大西　孝志
		小学部では、基礎的な学力や言語力の定着を目指すとともに、児童が自ら学び、協働的に学習しながら学びを深め、発信していく授業や環境作りが求められる。そのため、ICT の活用や感染症拡大による学習環境の大きな変	埼玉県立坂戸ろう学園 明晴学園

		化の中で、個々の課題に対応しながら、どう児童に「豊かな人生を自ら切り拓く」力を身に付けることができるかを深めたい。	
4	教科教育２（文系）	自ら問いを立てて探求するとともに、他者との対話を通して思考を深め、自らの考えを形成する授業づくりや指導について	東京学芸大学 教授　澤　隆史
		文系の教科は身に付けるべき知識・技能が多くある。身に付けた知識・技能を基に、ものの見方・考え方を働かせた学びが求められている。生徒自らが問を立て、粘り強く考え続けること、また、対話を通して気付きを得るなどして自らの考えを新たにしていくことは、これからの時代を生きていく上で欠かせない。ＩＣＴ機器を効果的に活用しながら対話を重視し、考えを深める授業について研究する。	茨城県立水戸聾学校 茨城県立霞ヶ浦聾学校
5	教科教育３（理系）	自ら問いを立てて探求するとともに、他者との対話を通して自らの考えを形成する授業づくりや指導について	筑波技術大学 准教授　脇中　起余子
		平成２８年度の中央教育審議会理科ワーキンググループにおける審議のとりまとめ（報告）によれば、*小学校、中学校ともに、「観察・実験の結果などを整理・分析した上で、解釈・考察し、説明すること」などの資質・能力に課題がみられることが明らかになっている。高等学校については、観察・実験や探究的な活動が十分に取り入れられておらず、知識・理解を偏重した指導となっているなどの指摘がある。* そこで、仮説や実験結果から考察する力を養い、根拠のある思考を手順を追って行えるようにする。探求的な活動を通して学習意欲を高め、論理的思考が生活全般でできるようになるなどの、力を付けるために、どのような指導が必要かを深めたい。	横浜市立ろう特別支援学校 川崎市立聾学校
6	教科教育４（実技系）	児童生徒がよく分かる授業づくりや学びを深めるための指導の手立てについて	筑波技術大学 教授　内藤　一郎
		聴覚障害特別支援学校においては、自立活動的な内容の学習に重きを置かれる傾向がある。学習場面においても言語指導の比重は高い。しかしながら、学校教育であるので、国語や算数・数学といった教科以外の体育や図画工作・美術、音楽、職業学科等のいわゆる実技系教科といわれる学習においても、基礎的・基本的な事柄の定着を図り、自ら解決できる力を育てる力を育成することは重要である。将来児童・生徒が学校を卒業後、生涯学習として自らの人生を豊かにするためにも必要な学びである。そのための指導・支援の在り方について検討したい。	埼玉県立大宮ろう学園
7	自立活動１（発音発語・聴覚活用・補聴機	個の保有する聴覚の実態、補聴機器等の活用を踏まえた、発音発語指導・聴覚学習の在り方について	大東文化大学 教授　齋藤　友介
		補聴器・人工内耳などの補聴機器やデジタル補聴援助システムなど、きこえに関する技術が進歩している。それ	筑波大学附属聴覚特別支援学校

	器）	らを活用した発音発語指導、聴覚学習の在り方について、個の実態や保有する聴覚に応じた具体的な指導方法や学習内容について、幼児・児童・生徒の力を高める指導の在り方の工夫を考える。	
8	自立活動２（コミュニケーション・障害認識）	自ら問いを立てて探求するとともに、他者との対話を通して自らの考えを形成する授業づくりや指導について	筑波技術大学 教授　長南　浩人
		ＩＣＴがあらゆる場面で利用される現代においては、情報の取得だけでなく適切な取捨選択をし、相手の心情や状況等を踏まえて意思疎通を図るコミュニケーション力が必要である。また自己の聴力やコミュニケーション手段も含めた自己認識を、他者との対話や内省を通して深め、さらにロールモデルとの出会いや様々な課題解決のためのアイディアに触れ、考えることで、自らの状況を周囲に説明し、社会の中で共生していく力をどのように身に付けていくかを深めたい。	神奈川県立平塚ろう学校 横須賀市立ろう学校
9	重複障害教育	興味・関心を引き出し、自ら探究する力を育てる授業づくり	一般財団法人日本心理研修センター 事務局長　永石　晃
		聴覚特別支援学校の重複障害児の在籍率の増加、さらに知的障害に加え、医療的ケアが必要な児童生徒など、障害の種類や状態が多様化している。そのため、ろう重複児の実態把握を適切に行う方法について検討し、実態把握に基づき、指導を実施することを目指す。また、児童・生徒が自ら人的環境・物的環境にアプローチするために、興味・関心を引き出し自ら探究する授業づくりの在り方を深めたい。	栃木県立聾学校
10	寄宿舎教育	課題を主体的に見出し、他者との協働により課題解決しながら人々とともに豊かに生活する力を育むための指導・支援のあり方について	横浜国立大学 准教授　雁丸　新一
		寄宿舎での生活は一人一人の自立する力を高め、他者と共に生活することで社会性も身に付けることができる。将来、人として豊かに生活するためには、自身の生活課題、地域社会や身近な社会との関りに気付き、他者と課題を共有して解決に向け協働できる力が必要となる。寄宿舎生活の中で舎生自らが課題を見出し、仲間と協議、協働してより良く生活できる力を育むことのできる指導・支援のあり方はどうあるべきかを深めたい。	群馬県立聾学校
11	キャリア教育、卒業後の支援	発達段階に応じた組織的で系統的なキャリア教育の推進について	東京学芸大学 非常勤講師 村野　一臣
		中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」によれば、*キャリア教育の必要性や意義の理解は、学校教育の中で高まってきており、実際の成果も徐々に上がっている。しかしながら、「新しい教育活動を指すものではない」としてきたこ*	静岡県立沼津聴覚特別支援学校 静岡県立静岡聴覚特別支援学校 静岡県立浜松聴覚特別

		*とにより、従来の教育活動のままでよいと誤解されたり、「体験活動が重要」という側面のみをとらえて、職場体験活動の実施をもってキャリア教育を行ったものとみなしたりする傾向が指摘されるなど、一人一人の教員の受け止め方や実践の内容・水準には、ばらつきのあることも課題（後略）。*その課題の解決を考えるために、キャリアカウンセリングの観点を踏まえ 聴覚に障害のある幼児・児童・生徒への指導・支援の在り方について深めたい。	支援学校
12	センター的機能（関連諸機関との連携）	地域との連携の充実を目指したろう学校としての取組や役割について考える。	筑波大学 教授　鄭 仁豪
		新生児聴覚スクリーニング検査の充実により、早期から聴覚に障害のある幼児への対応が必要となっている。聴覚スクリーニング検査で難聴の疑いがあるとされ、保健センターや大学病院などとの連携が必要なケースが多く、またそのような関係機関で働く人との関係を築いていくことが求められている。聴覚に障害のある全ての子どもたちがより適切な指導・支援を得るためには、ろう学校が専門的な教育機関としてこれまで以上に地域との連携を強化し、地域のセンター的な役割を果たす必要がある。そのために地域や関係機関関と協働した指導・支援の在り方について深めたい。	長野県長野ろう学校 長野県松本ろう学校

13　開会式次第（予定）

（１）開式の辞

（２）挨拶

全日本聾教育研究会会長

東京大会実行委員長（東京都立大塚ろう学校長）

（３）来賓挨拶

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官

東京都教育委員会教育長

（４）来賓紹介

（５）閉式の辞

（６）諸連絡

14　閉会行事（予定）　それぞれの分科会会場ごとに実施

（１）開式の辞

（２）挨拶

全日本聾教育研究会会長

東京大会実行委員長（東京都立大塚ろう学校長）

全日本聾教育研究会副会長（次年度開催校主管校　校長）

（３）閉式の辞

15　情報保障について

全体会（開会式、記念講演）では、手話通訳、音声認識の文字変換による字幕を準備いたします。授業研究分科会、研究協議会においては、必要とする参加者がいる場合に情報保障を行いますので、情報保障を希望される場合は、その旨を「大会申込書」に御記入ください。

16　大会参加費及び資料代

参加費用

会員　　2,000 円

会員外　3,500 円　　学生 1,000 円（学部生、参観のみ）

資料代　無料

17　研究発表

研究協議分科会の研究発表の資格は会員であることとします。

なお、地区研究会に所属していない大学教員等は、本部事務局が対応、掌握の上、会員の資格を得てください。

連 絡 先	全日本聾教育研究会本部事務局 〒２７２－８５６０　千葉県市川市国府台２－２－１ 筑波大学附属聴覚特別支援学校内 Tel ０４７－３７１－４１３５（代）　Fax　０４７－３７２－６９０８

発表数が多い研究協議分科会においては、発表時間を十分に設定できない場合があります。あらかじめ御了承ください。

18　大会参加等の申し込みについて

申込内容	受付期間	申込・送付先
大会予備調査	令和６年（2024 年） ３月実施予定	東京大会事務局 （東京都立大塚ろう学校内） ※専用の web フォームから仮申込をしてください。
大会参加申込み 研究発表申込み 昼食申込み	令和６年（2024 年） ６月 14 日（金）まで	東京大会事務局 （東京都立大塚ろう学校内） ※専用の web フォームから申込をしてください。
研究発表原稿提出	令和６年（2024 年） ７月　１日（月）から ２６日（金）まで	東京大会事務局 （東京都立大塚ろう学校内） ※専用の web フォームから申込をしてください。
宿泊の申込み	宿泊については、参加者自身で行ってください。	

19　業者による機器展示について

実施予定

20　大会事務局及び連絡先

第５８回全日本聾教育研究大会（東京大会）事務局

〒170-0002　　東京都豊島区巣鴨４－２０－８
Tel　０３－３９１８－３３４７　Fax　０３－３９１５－９８４４
＜大会実行委員会＞
実行委員長　：東京都立大塚ろう学校長　荒川　早月
大会事務局長　：東京都立大塚ろう学校　齊藤　政行
masayuki_saito☆education.metro.tokyo.jp
（お問い合わせの際は、☆を＠に変更してメールを送信してください）